

2 まちづくりの方向性と施策体系

- 市制施行 100 周年という大きな節目を目標年次とする後期実行計画は、第四次宇部市総合計画の仕上げであるとともに、現在を生きる私たちが、次世代に“希望あふれる未来”をつなぐ計画とします。
- 人口減少が進む中であっても、本市が魅力と活力にあふれ、持続可能なまちづくりを展開していくために、国の「持続可能な開発目標（SDGs※）実施指針（2016 年 12 月策定）」も踏まえ、引き続き「しごと」と「ひと」の好循環の確立など、本市の地方創生を推進します。

※2015 年 9 月の国連サミットで採択された、人類及び地球の持続可能な開発のために達成すべき課題とその具体的目標

(1) 今後のまちづくりに向けた課題

中期実行計画の検証と社会経済情勢の変化を踏まえ、今後のまちづくりにおいて、特に留意すべき課題を整理します。

① 技術革新に対応した産業力の強化

近年、ネットワーク技術やデータ分析技術の高度化が進んでおり、国においては、「未来投資戦略 2017」の中で日本の再興戦略として「Society5.0」の実現が掲げられています。このような中、IoT などの先端技術が産業界にも急速に普及しており、今後、IoT やビッグデータ等を活用した新たな製品・サービスの開発が進むなど、地方都市においても広範なビジネスチャンスが生まれるものと思われれます。

このため、これまで取り組んできた産業振興策に加えて、ICT・IoT を活用することで、産業力の強化・イノベーションに取り組み、新たな価値の創出や生産活動の効率化、市民生活の利便性の向上を図る必要があります。

② 子育て環境の充実と社会変化に適応する人づくり

核家族化やひとり親家庭の増加など、子育ての基礎となる「家庭」を取り巻く環境が変化しており、社会全体で子育てを支える取組や子育て世帯の負担軽減等により、子育てしやすい環境づくりを進めていくことが重要となります。

また、ICT の高度化や国際化の進展など、社会情勢が大きく変化する中、未来を担う子どもたちの生きる力を育む特色ある教育を進めるとともに、全ての子どもたちが希望を抱き、チャレンジできる支援体制を構築していく必要があります。

③ 長寿社会の到来に向けて

人口減少、少子高齢化が進む中、核家族化や地域コミュニティの希薄化を背景に、

高齢者や障害者等の「社会的孤立」の問題、ごみ出しや買い物など日常生活の支援の必要性が顕在化しています。

保健・医療・福祉の連携強化による地域ケアの充実や、認知症対策、障害者の自立支援などを進めるとともに、住み慣れた地域で、誰もが健やかに幸せに暮らすことのできる健康長寿社会の実現に向けた取組を、進めていく必要があります。

④ 地域資源を生かした魅力の創出・にぎわいづくり

本市の活力を維持していくためには、ときわ公園やUBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）をはじめとする宇部市独自の地域資源を積極的に活用し、交流人口の拡大、人口減少の抑制に繋げていくことが重要です。

そのためには、市民をはじめ多様な主体とともに、若者から高齢者までの幅広い世代にとって、魅力的でにぎわいのあるまちづくりを進める必要があります。

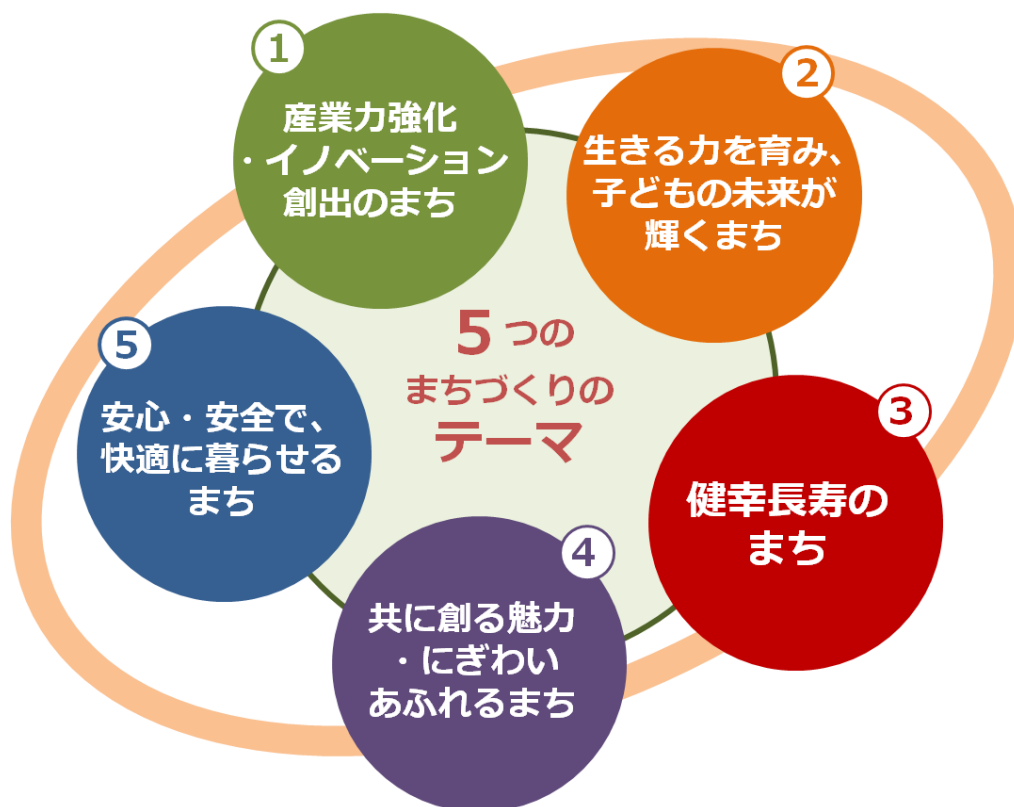
⑤ 安心・快適な暮らしの確保

自然災害や大規模事故から市民の生命と財産を守るため、計画的な都市環境の整備や地域における防災力の強化、交通安全対策などの取組を進めていく必要があります。

また、少子高齢社会において、市民の快適な暮らしを確保するために、地域コミュニティの充実を図るとともに、移動手段の確保や安らぎを感じる緑地空間づくりなどに取り組んでいく必要があります。

(2)まちづくりのテーマ(取組の方向性)

課題の解決に向けて、オール宇部市でチャレンジする、後期実行計画の「まちづくりのテーマ」を設定します。



(3) 施策体系

